

[成果情報名]高冷地における夏秋パプリカの有望品種および栽培法

[要約]高冷地における夏秋パプリカは、無加温ハウスを利用し5月上旬に定植することで7月下旬から11月下旬まで収穫できる。有望品種は赤色系がアルテガとUN506R、黄色系がスベンとUN502Yである。栽植方法は株間20cmの2本仕立てが適する。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜・花き振興セ・野菜作物科・島田 彬

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

収穫や調製作業に大きな労力がかからないパプリカは、果菜類の新たな品目として有望である。しかし、本県高冷地における土耕栽培の栽培条件や品種特性等の基本的な栽培技術が確立されていない。そこで、夏秋パプリカについて、生産者の導入促進等の一助とするための栽培技術を新たに確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 夏秋パプリカは、無加温ハウスを利用し5月上旬に定植することで、7月下旬から11月下旬まで収穫することができる（図1）。
2. 有望品種は以下のとおりである（図2）。
赤色系：アルテガ、UN506R
黄色系：スベン、UN502Y
3. 栽植方法は、1条植えて株間を20cm、仕立て本数を主枝の2本仕立て（栽植株数3,125株/10a）とすることで最も収量が多くなり、11~13t/10a（品種：アルテガ）の可販収量を得ることができる（図3、図4、表1）。

[成果の活用上の留意点]

1. 試験は北杜市明野町の高冷地野菜・花き振興センター（標高747m）内の無加温パイプハウスで2018年、2019年の2年間行った。
2. 栽培方法は以下のとおりとする。
 - ・畝幅160cm（床幅70cm、通路90cm）で、夏場の地温上昇を抑制するために白黒マルチを使用する。
 - ・施肥は緩効性肥料を3要素分量で各30kg/10aをマルチ内施用し、草勢を見ながら追肥を行う。

[期待される効果]

1. 高冷地における夏秋パプリカの栽培技術の確立により、新たな果菜類の夏秋栽培品目となる。

[具体的データ]

品目	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏秋パプリカ	○	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—

図1 無加温ハウスにおける夏秋パプリカの栽培暦

※○:播種 △:定植 □:収穫
 ※試験は2018~2019年度に行った。

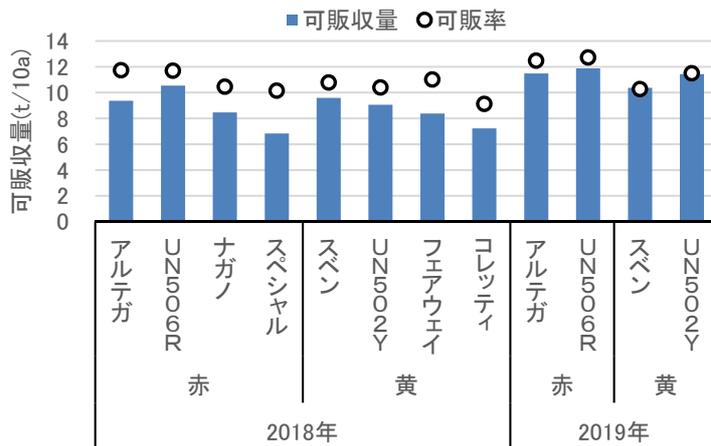
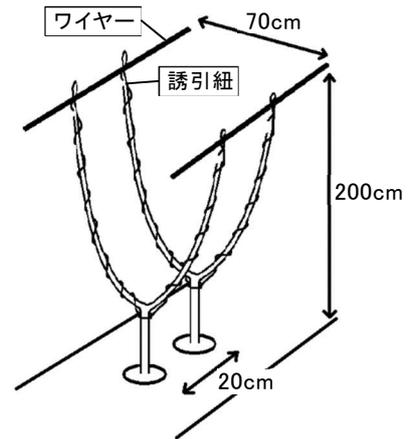


図2 各品種の可販収量および可販率

※試験は2018年、2019年に行った。いずれの年も2本仕立て。
 株間は2018年が30cm、2019年が20cm。
 ※可販収量は日焼け、尻腐れ、変形、虫害等がないものの重量



2本仕立て

図3 夏秋パプリカの栽植方法

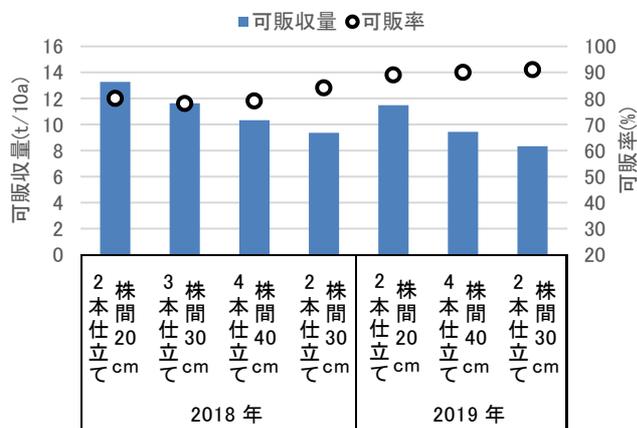


図4 各栽植方法の可販収量および可販率

※品種は「アルテガ」
 ※可販収量は日焼け、尻腐れ、変形、虫害等がないものの重量

表1 各栽植方法の栽植株数と平均一果重

年次(年)	試験区		栽植株数 (株/10a)	平均一果重 (g)
	仕立て	株間		
2018	2本	20cm	3,125	175
	3本	30cm	2,083	175
	4本	40cm	1,563	169
2019	2本	30cm	2,083	179
	2本	20cm	3,125	196
	4本	40cm	1,563	181
	2本	30cm	2,083	199

※品種は「アルテガ」

[その他]

研究課題名：高冷地における夏秋パプリカの安定生産技術の確立

予算区分：県単 研究期間：2018~2020年度

研究担当者：島田彬、山崎修平、馬場久美子